SEIFUNANKAI GAKUEN

清風南海高等学校

平成 30 年度

SGH 中間発表会

〈資料〉

Super Global High School

Think Global

Strength Reverence Honor

平成 31 年（2019 年）2 月 21 日

－目次－

	ページ
ご挨拶	1
Ⅰ　本校の SGH 事業	
１．本校 SGH 構想	2
２．SGH 事業の内容	3
３．シナリオ・プランニング（SP）について	4～5
Ⅱ　報告（今年度）	
１．一年生	6～13
①STEP ゼミ(基礎)　Economic（経済的分野）	
②STEP ゼミ(基礎)　Technological（科学技術的分野）	
③Global English（グローバル・イングリッシュ）	
④講演会・特別授	
⑤Field Work（フィールドワーク）、その他	
２．　二年生	14～27
①STEP ゼミ　Political（政治学的分野）	
②STEP ゼミ　Societal（社会学的分野）	
③STEP ゼミ　Economic（経済的分野）	
④STEP ゼミ　Technological（科学技術的分野）	
⑤シナリオ・プランニング（SP）	
⑥Global English（グローバル・イングリッシュ）	
⑦講演会・特別授業、その他	
Ⅲ　今後の事業展開について	
１．国内外のフィールドワーク（3 月）の予定	28
２．事業展開　-3 年間の流れ-	30
３．運営指導委員一覧・連携先一覧	31

〈国際シンポジウム〉

ご挨拶

清風南海高等学校
SGH プロジェクトチーム

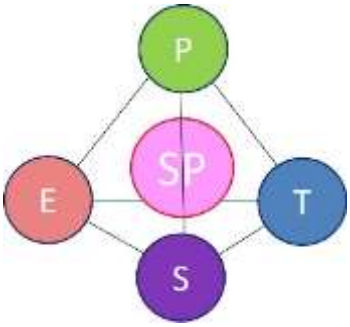
本日は、清風南海高等学校 SGH(スーパー グローバル ハイスクール) 平成 30 年度中間発表会にお越しいただき、ありがとうございます。

本校では、社会の急速な「グローバル化」の進行に対応し、将来様々な分野で活躍することができるグローバルリーダー育成をめざして、平成 27 年度より高等学校に「グローバルコース」を設置致しました。それと同時に、現代社会の抱える課題に関心を持ち、深い知識と教養を備え、論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付ける、質の高いカリキュラムを開発・実践する高等学校として、文部科学省から「スーパー グローバル ハイスクール (SGH)」にも指定されました。これまで色々と試行錯誤を重ねながらも、何とか道筋をつけることができてきたのではないかと自負しております。

昨年 11 月 10 日には、第 3 回目となる「未来を考える国際シンポジウム」を開催いたしました。海外 4 カ国 5 校より 10 名の学生を招待し、２年生を中心に、協働してシナリオ・プランニングの発表やパネルディスカッションを英語で行いました。また、国内の他校生と共に、様々な交流の機会を作ることができました。

今回の中間発表会では、1 年生が運営の主体となり年度後半の活動、つまり『STEP ゼミ(基礎)』のうち Societal と Technological について、代表生徒たちがプレゼン発表を行います。また、2 年生は国際シンポジウムからさらに精錬したシナリオ・プランニングの発表を行います。その後 1 年生と 2 年生全員によるポスター発表を実施し、活動内容の説明を行うとともに、皆様からのご質問にお答えし、かつご助言をいただく機会としたいと考えております。ぜひ、ポスター発表もご覧いただき、生徒たちにアドバイスをただけましたら幸いに存じます。

今後とも、本校 SGH の取り組みにつきまして、各方面関係者の皆様の多大なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



Ⅰ　本校の SGH 事業

１．本校 SGH 構想

①本校 SGH 構想の概要

○「未来を読み解く力」と「世界に発信する力」を身につけるための教育システムの開発を目的とする。
○生徒による「シナリオ・プランニング（SP)」を用いた未来予測を研究開発のテーマとし、学習教材としての体系化を図る。

②「シナリオ・プランニング（SP)」の本校 SGH 構想における位置づけ

○「地球規模の視野を持って世界のあり得べき未来図を描き、社会をより良い方向に導いていく人材」と定義したグローバル・リーダー育成をめざし、ビジネス手法「シナリオ・プランニング（SP)」を学習教材として体系化する。
○テーマを「SP を用いて未来のエネルギー事情を考える」とし、年に２回中間発表会を行う。また、春期フィールドワーク訪問先の高校生や大学生、近隣のＳＧＨ校・アソシエイト校等を招待し、国際シンポジウムを開催する
○教科教育の枠を超えた知識や分析力が必要となるので、Societal, Technological, Economic, Political の 4 つのゼミ（STEP ゼミ）を開講して専門的な知識や考え方等を習得する。
○国内外のフィールドワークを積極的に行い、国内外の高校・大学・企業・地方公共団体等と協働してシナリオ・プランニング（SP）を行う。
○『STEP ゼミ』・『GE』（グローバル・イングリッシュ）・『フィールドワーク』などの取り組みを統合し、「生徒によるシナリオ・プランニング（SP）を用いた未来予測」を実施し、論文作成を行うとともに、学習教材としての体系化と普及・ネットワークの構築を図る。

③「シナリオ・プランニング（SP)」

【概略】
　シナリオ・プランニングとは、大手エネルギー会社ロイヤル・ダッチ・シェル社が用い、世界の多くの企業がその予測を参考にしていることで有名な未来予測の手法である。これは単なる未来の予想ではなく、未来の多様なリスクに対応するために、複数の「起こりうる未来のシナリオ」を論理的に創り上げることにその特徴がある。そして各シナリオに対応した戦略や対策を考えることで、新たな変化に対処することができる。
【ステップ】
　本校ではＳＰを後述の８つのステップに分けて行う。
生徒にとってＳＰを理解することが難しいので、
フレームワークがあるほうが理解しやすい。
授業では各ステップで説明文付きのパワーポイントを
作成し、生徒に配布した。生徒はいつでもファイルをみて、
ＳＰの内容を理解したり、やらなければならないことを確認
できるようにした。

２．SGH 事業の内容

STEP ゼミ・講演会・特別授業・GE・フィールドワーク・その他

本校の課題研究テーマは「シナリオ・プランニング（SP）を用いて未来のエネルギー事情を考える」であり、研究開発の主軸は SP である。SP を行うことで、論理性・課題発見能力を高め、主体的に活躍できる人材を育成することを目指している。しかし、本来 SP は高度なビジネス手法であり、その手順は高校生には難解である。また SP を行うために必要な、未来に影響する因子を列挙するという作業のためには、広い視野と多角的な思考法を身につけねばならない。そこで以下のように、年次進行で SGH 事業の研究開発を行う。

①一年次

次年度以降の SP 演習に耐えうる生徒の素養を養うことを主たる目標とする。

【STEP ゼミ】　Societal, Technological, Economic, Political のそれぞれのゼミを各 7～8 回ずつ実施し、生徒はそれぞれの考え方の基礎を学ぶとともに、次年度以降のゼミ専攻の参考とする。なお、それぞれのゼミにおいて専門家を招き、講義や演習の指導を受ける。

【GE】通常の英語の授業と連携を取りながら、姉妹校との Skype 授業や、英語によるディスカッションやプレゼンテーション等を計 7～8 回行う。なお、20 名弱のクラスに対し、日本人教員 1 名と外国人教員 1 名によるチームティーチングで行う。

【国内・海外フィールドワークの実施】　長期休暇を利用して、関東方面、マレーシア・シンガポール、フィリピンへの研修旅行を行い、現地の企業・大学・高校等と協働して探究活動を行う。

②二年次

【STEP ゼミ】　各生徒が Societal, Technological, Economic, Political の 4 つのゼミから 1 つを選択し、一年次の学習内容を深化して学ぶ。学習内容を活用できるよう、これら 4 つの専門分野を学んだ生徒が混在するよう、シナリオ・プランニング（SP）のグループを作る。

【SP】　「未来のエネルギー事情を考える」という本校 SGH の設定テーマに沿って、授業のテーマを設定し、活動はグループで行う。前期では、授業の最初にＳＰの方法を解説する。その後、チームがテーマに沿ったトピックを選び、シナリオを作成するための２つの軸を選ぶ。後期ではシナリオを完成させる。

【国内・海外フィールドワークの実施】　SP の成果を国内外に発信するとともに、フィールドワークの実施を通じて、現地の企業・大学・高校等との協働 SP を目指して準備を進める。

【GE】　多数の生徒が一年次の終わりに海外のフィールドワークに参加しており、英語によるコミュニケーションの重要性を認識していること踏まえ、国際シンポジウムでの活用も視野にきめ細かな指導を行い、総合的な英語力の向上を目指す。

③三年次

【SP】　2 年次における「生徒によるシナリオ・プランニング（SP）を用いた未来予測」の成果を論文に作り上げるとともに、学習教材としての体系化と普及・ネットワークの構築を図る。また、英語化を可能な限り行うことにより海外も含めた成果の発信を積極的に行う。

３．シナリオ・プランニング（SP）について

◎「シナリオ・プランニング（SP）」８つのステップ

《Step１：テーマの設定》

テーマの設定は教員で行い、幅広いトピックがあがるように考える。今回は「エネルギー」とした。

《Step２：トピックの設定》

ブレインストーミングを行い、テーマに関係するトピックを考えさせる。幅広く考えられるように間接的にテーマと関係があればトピックとして認める。

トピックのタイトルは「××年後〇〇」とし、××年後の社会状況を表すようなものにする。また、主体者を明確にし、誰のためのシナリオを作成するかを考える。

《Step３：情報収集》

トピックに関係する情報を集める。生徒は基礎知識が乏しいことが多く、書籍やネットなどを利用して学習する。この情報収集は次のドライビング・フォースを列挙するのに必要となる。

《Step４：ドライビング・フォース（DF）の特定》

トピックの未来に大きな変化をもたらす可能性のある因子をドライビング・フォースという。情報収集した中から因子をできるだけ多く挙げる。それをＳＴＥＰに分類し、足りないものを補っていく。その後ＳＷＯＴ分析を行い、外部環境要因であるＯ(機会)とＴ(脅威)を抽出する。

《Step５：IUマトリクスへ適応》

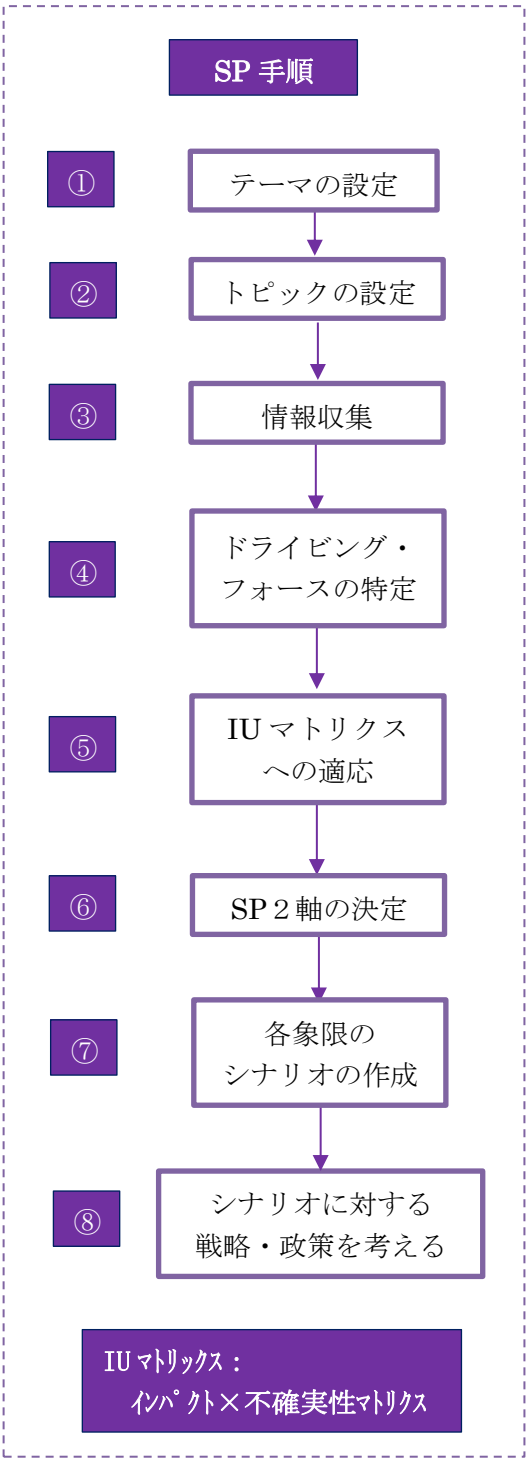
Step４で抽出したドライビング・フォースを横軸にUncertainty(因子実現の不確実性)、縦軸にImpact(因子実現のインパクト)を取ったマトリクスに当てはめる。左上の因子はインパクトが大きく、不確実性が低い(=因子実現がほぼ読める)ものをベース因子と呼び、すべてのシナリオの土台となる。右上の因子はインパクトが大きいが、不確実性が高いものとなり、重要因子となる。

《Step６：SP２軸の決定》

Step５の重要因子から２つを選び、ＳＰマトリクスを作成する。Step７以降のためには、この２つの要素は互いに干渉し合わないものにしておく必要がある。

《Step７：各象限のシナリオの作成》

Step６で挙げた２軸をもとに、「ともに起こる」「どちらかが起こる」「ともに起こらない」４つのシナリオができる。「ともに起こらない」シナリオをベースシナリオといい、すべてのシナリオはここから始まる。シナリオを作成する時はシステムダイヤグラムを使い、様々な事象を付箋に書き、起こる順番に並び替えていく。その中で分岐点を探し、軸に選んだ重要因子が起こるシナリオを作成する。



《Step８：シナリオに対する戦略・政策を考える》

それぞれのシナリオに対して、主体者がどのような戦略・政策・対応をするかを考える。各シナリオにおいて、企業・政府・個人など主体者が変われば、戦略や政策、対応などは異なる。適切な答えを導くことで、シナリオを活かすことにつながる。

【期待される効果】

期待される効果は以下の５点である。

① 未来への視線を持つ

若く、未来の開けている高校生とはいえ、今日の彼らの視野は「イマ・ココ」に囚われがちである。未来予測を研究課題とすることで、未来へ目を向けることを習慣化させることができる。

② 自分の考えの相対化

ＳＰとは、自分一人で考えていてはバイアスに左右されて偏ってしまいがちな未来の展望（シナリオ）を、手順を踏み、他者と協働することで、出来る限り論理的整合性のあるものに昇華する（プランニング）ための手法である。これを学ぶことで、生徒各自が自分の考えの持つ偏向性を見つめ直すことができる。

③ 多様性を受け入れられるようになる

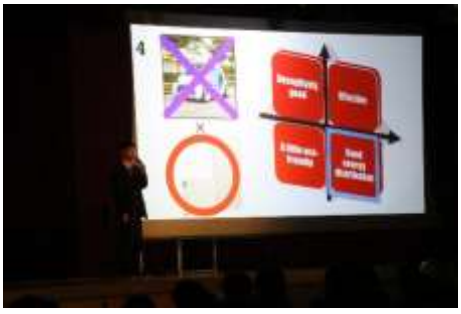
ＳＰは本来、大人数でフラットに、ブレインストーミングの形で行うものである。違う視点からの発言が不可欠であり、自然と他者の多様な意見に対して敬意を持つことができる。

④知識の体系化（問題発見能力と課題解決力の育成）

「探究型学習」の多くは現在起こっている課題に対してどのような解決方法があるかを考えることが中心で、いわゆる「課題解決力」の育成が中心である。しかし、問題が起こる前に事前に対応策を考えておくことは昨今の危機管理に通じるところがある。Step４～６はドライビング・フォースを様々に分類をしたり、評価する。この過程で、あるイベントが起こった時の影響を自ら考えることになり、これによって問題発見能力を養うことが可能である。また、シナリオを作るだけでは、単に物事の記述をするだけで、何ら課題解決力につながらない。シナリオの主体者、たとえば政府や企業といった立場から、どのような戦略や政策を行えばいいかを考えることで課題解決力の養うことにつながる。

⑤論理的思考力の育成

未来のシナリオを作成するとき、気をつけることは単なる空想であってはならないということである。現在入手可能な資料をもとに論理的に起こりうる可能性を考えていくことが必要である。必ず、根拠となる資料を示すことで説得力のあるシナリオとなる。因果関係をはっきりさせながら考えることで論理的思考力を養うことができる。



１．一年生

後期の STEP ゼミは、Societal と Technological を行いました。

① １年 STEP ゼミ(基礎)　Societal（社会学的分野）

【意義・ねらい】

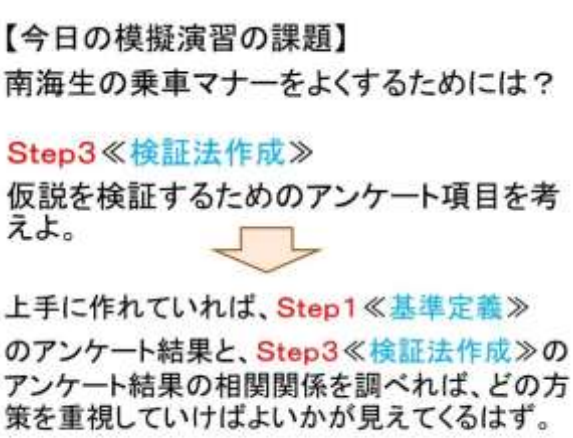
・表計算ソフトによる統計処理を行う。
・論理的思考力を養う。
・社会調査を行う。
・データから人を納得させる立論を行う。

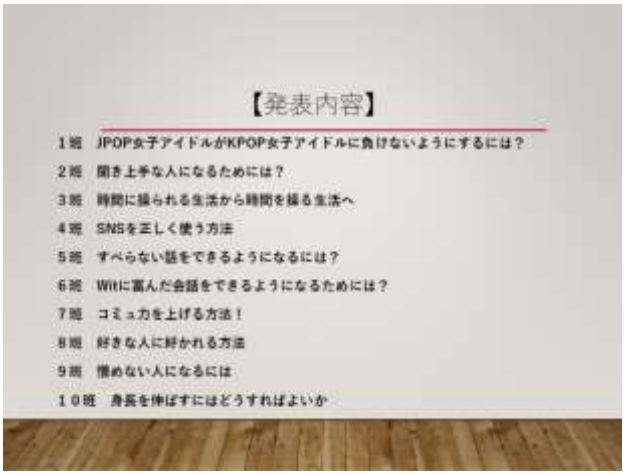
本授業の目標は、仮説の真偽を明らかにするまでの手法（データ分析）を確立させることである。その手段としてアンケート調査を行い、統計処理を実施し、仮説の真偽判定を行った。また今後さまざまな外部コンテスト等に応募することも念頭において、「〇〇を△△にする方法」のような「方法の模索」というテーマに絞ることとした。

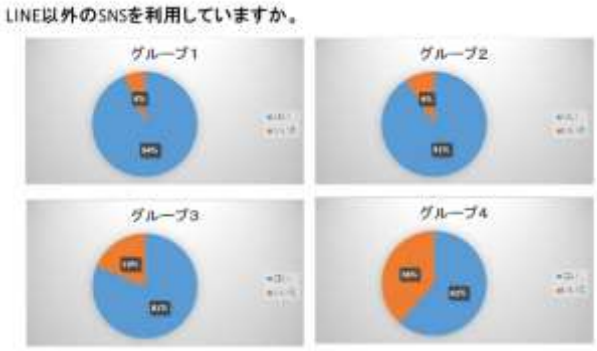
【授業の流れ】

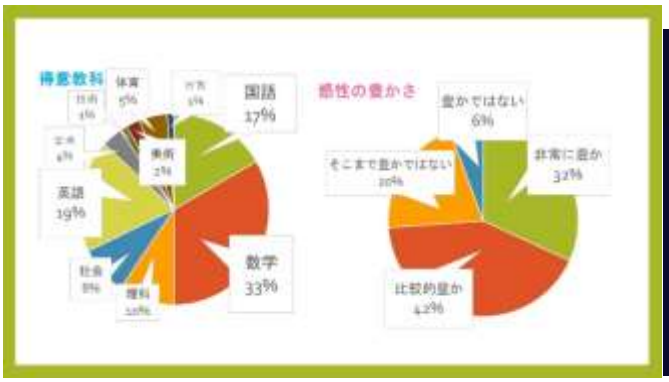
１回目	各学問領域の説明と社会学についての説明
２回目	アンケート実施についての説明と模擬テーマについての思考演習
３回目	テーマとアンケートのアウトラインを決定。
４回目	アンケートの項目についてのディスカッション
５回目	アンケートの作成
６回目	アンケートの集計
７回目	発表

【授業時のＰＰ及び生徒作品】









【生徒の感想】

・私が予想していた結果と異なっていたので様々なことを発見できました。また、ほかの班の人たちの発表が興味深かったので聞いてて楽しかったです。ピッポトテーブルの使い方など新たに Excel の使い方を知ることができました。

・societal は専門的な知識や情報などを調べて見聞を広めることよりは、自分達で考えることが一番多かったように感じました。一つのテーマについて深く掘り下げることで、頭の運動が出来たかと思います。

・今回アンケートを作成するにあたって、目標の定義を設定して、仮説を立てていくのが非常に難しかったです。でもこの経験を通して、物事を順序立てて論理的に見られる力がついたように思います。また、実際アンケートを作成するのはすごく想像力がいるものなんだなと感じさせられました。

・自分たちの気になることをテーマに設定し楽しく活動を行えた。アンケート項目を考えるときにどのようにすれば答えやすくなるのか、自分たちの聞きたい答えを聞き出せるのかを考えるのは難しかったが、そこが一番面白かった点でもある。

【講評】

担当者としても 2 週目の Societal 基礎ゼミであり、一期生との差異化をどうはかり、どう修正していくかを考えながら取り組んだ。単にバイアスを立証するだけでなく、より実践的な活動とするために今回は方法論を模索するという形式をとったが、結果的には生徒にとっても分かり易い形になったのではないかと思う。計８コマと例年よりも時間がない中で授業を進めており、逐一説明するよりも生徒の自主的な気づき等を重要視してきたが、思った以上によい発表ができあがっていた。

様々なことを調べる学習も大切であるが、答えの無い問いに対して、骨組みを点てて論理的に思考することも非常に大切である。それが分かってもらえたのならば成功であろうと考える。

② 1年 STEP ゼミ(基礎)　Technological（科学技術的分野）

【意義・ねらい】

・環境問題について関心をもってもらう。
・データが示している内容を正しく読み取る。
・論理的思考力を養う。
・グループ活動を通して、協調性と問題解決能力を養う。
・調査･分析、発表などに必要な技能を身に付けさせる 。

科学的な視座の基礎を身に付けるため、私たちの身の回りで起きている「環境問題」について研究を行った。環境問題と一言でいっても多種多様で、またそれぞれの問題に対していくつもの要因があり、とても複雑なものである。そこで、外来種問題や水環境など生態系に関するものと、太陽光発電をはじめとする次世代のエネルギーに関するものとの２つに分けて取り組んだ。今年度前半は生態系に関する問題を琵琶湖に見られる環境問題をテーマとして研究を開始した。この際、環境教育が盛んな滋賀県の琵琶湖環境部に協力していただいた。外来種問題は社会的にも関心の高いテーマであり、生徒が取り組みやすい内容であった。まずは琵琶湖の価値を認識させ、その後、琵琶湖に見られる環境問題を取り上げて、現在の取り組みや対策を紹介した。より具体的な問題を取り上げることで、原因となっているものにはどのようなものがあるのか、またそこであがってきた複数の原因の関係性などを考えさせた。後半ではエネルギー問題に取り組むため、環境問題という大きなテーマにいったん戻って、生物が生きていくための環境を人間自身が破壊と修復を繰り返していることを再認識させた。特に電力問題は現代人の生活と切り離せないものであり、先進国が世界のエネルギーの多くを消費している。このことが世界のエネルギー資源を枯渇に向かわせていることを改めて学んだ。また、数年前に話題となったシェールガスについても考えさせる機会を作った。

これらの事前準備を経て、「外来生物」「水質」「太陽光発電」「エネルギー資源」の４分野から生徒一人ひとりが取り組みたい分野を選択させ、班を構成した。取り組みを始めるうえで、調査や研究の目的を明確にすることと独自性を取り入れること（ネット等の調べ学習にならないこと）を条件とした。さらに、比較や調査の方法を明らかにし、そこから得られた結果を考察すること、そして今後の展望についても考えさせた。うまく結果が出なかった場合や予想に反する結果となった場合は、事実を隠さずに報告するように指示した。これにより、正確な情報および改善策の共有が可能になると考えた。ゼミの最終回では各班がプレゼン発表を行い、担当教員が作成したルーブリックによって生徒自らが評価を行った。

【授業の流れ】

1 回目	環境問題から見る琵琶湖①　外来種、湿地保全について
2 回目	環境問題から見る琵琶湖②　水質、生態系について
3 回目	環境問題から見るエネルギー①　太陽光発電など次世代のエネルギーについて
4 回目	環境問題から見るエネルギー②　エネルギー資源とその再利用について
FW(希望者)	現地に足を運び、現状を見ることで、課題への取組方を考える。
5 回目	外来生物、水質、太陽光発電、エネルギー資源の４分野に分かれて発表準備①
6 回目	外来生物、水質、太陽光発電、エネルギー資源の４分野に分かれて発表準備②
7 回目	発表会

【生徒の感想】

・私が強く思ったことは現地にて観察をすることのインパクトの大きさ。そこで生活する人や、研究をしている人の話を聞くことの大切さであった。実際の詳しい状況を知るには、自分の足で行くことが一番だと分かった。環境や地域と最も密に関わっているのは現地で生活をする「人」なので、今後様々な物事や環境などを観察するときは、現地の人々の生活や気持ちを意識していきたいと思います。

・近畿の重要な水資源である琵琶湖の状態を自分の目で学ぶために、夏季フィールドワークで琵琶湖へ実際に行った。琵琶湖には外来種がいたり、藻の発生が多かったりと事前の technology の授業で学んだ。フィールドワークで私が最も驚いたことは、各家庭にかばたが１つあり、湧き出てくる水は浄化せずに飲めるそうだ。また、その水は年中冷たくて気持ちが良いそうだ。琵琶湖のビワマス、小鮎、近所の手作り豆腐を使ったお味噌汁、つくだ煮をたべた。地産地消ができるほど自然がいっぱいで昔の時代に戻ったようだった。私は日本全体がこうなればいいのになと思っている。このような生活は実際に行ってみないと素晴らしさが分からないと思うので、多くの人に実際に町を訪れてほしい。

【講評】

《良かった点》

・全員が「外来生物」「水質」「太陽光発電」「エネルギー資源」の４分野を学習したことで、広い視野と問題意識が身についた。また、この 4 分野から発表内容を選ばせることで各自の興味・関心を発揮することができた。

・上記の生徒の感想にもあるように琵琶湖でのフィールドワークが印象深かったようである。環境問題の動機づけに良い取り組みであった。

・プレゼン発表では形式をある程度固定することで、論理性を重視して簡潔に述べる手法を学んだ。また、数値やデータを積極的に活用することで比較検討する習慣が身についた。

・テーマや内容を自由に選んで発表させたところ、多様な内容となり各班の特性を活かすことができた。

《反省点》

・調べた内容やデータのほとんどがネット上のもので、一部には説明不足のものや信憑性が不確かなものがあった。これらを吟味する能力を養う必要がある。

・外来生物など身近な問題ほど取り組みやすく発表する班が多かった。そのため、発表内容に偏りができた。また、似たような発表内容になった班もあった。

・生徒たちは「発表したい内容」だけを発表しており、「聞きたい内容」にはなっていない。つまり、魅力的な発表とはいえない班がほとんどであった。自分たちが何に興味を持ち、何を知りたかったのかを明確にし、聞き手の立場に立った発表を心掛けてほしい。

③ Global English for 1st Year Students

【意義・ねらい】

① 英語によるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。

② global issues に対する理解を深め、地球規模の視点でその問題について議論する。

【授業の概要】

（授業構成）

① １クラス（約４０名）を約２０名ずつのグループに分けて授業を行う。

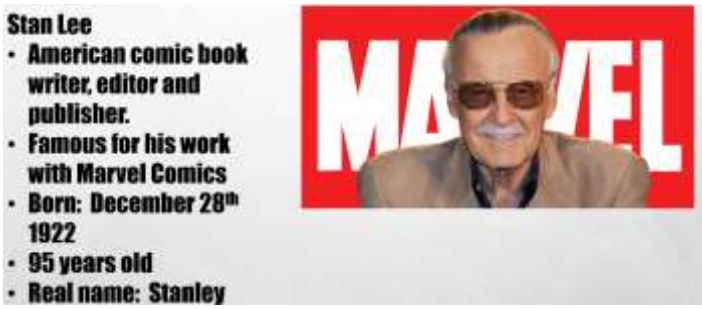
② 各グループに対し、日本人教員１名と外国人教員１名が指導にあたる。

③ 授業は基本的に英語で行い、生徒同士も原則的に英語で会話をする。

（活動内容　前半：第１回～第４回）

（１）・「スティーブ・ジョブズによる iPhone のプレゼンテーション」を見て英語の効果的なプレゼンテーションの方法を考察する。

・「ドラえもんの道具」から好きな道具を選びそれを販売するために効果的なプレゼンテーションを各班で考える。（各班２～3 名）



（２）各班ごとに、パワーポイントを用いた約４分間の発表を行い、評価シートをもとに評価し競い合う。

（３）・「a person I want to feature」ペア毎に尊敬、憧れ、好き、嫌い等、自分達にとって印象のある人物を選び、その人物を紹介するプレゼンテーションを作成する。
誹謗中傷にならないように注意する。大衆が認知できる実在の人物を選ぶ。

（４）・生徒がイメージしやすいように教員が作成したプレゼンテーションを見せてグループ分け、人物選択、プレゼンテーション作成を行う。前回のプレゼンテーション同様、班ごとに、約４分間で発表し評価シートをもとに評価し競い合う。

（活動内容　後半：第５回～第８回）

（５）・海外 FW に向けての班分け

・それぞれの国に対する基礎調査

・1 年間学んできた STEP ゼミの知識を生かし、STEP の観点から、各訪問国の問題の洗い出し

（６）・日本との共通点や他国の事例等を含めて現地校でのプレゼンテーショントピックの絞り込み

（７）・日本語での各班のプレゼン指針確認　・英語のプレゼンテーション用スライドの完成

（８）・各国のグループに分かれ各４チームがプレゼン発表

・各チーム講評をもらい、その後改良。海外での発表とディスカッションに備える。

【Teachers' Comments】

In the first half of the year, students were taught presentation skills in English, with a view to improving their performance in delivering compelling presentations during their field work trips in March of 2019. The students were shown videos of English presentations in order to highlight the differences in style and content between presentations carried out in English, and presentations carried out in Japanese. This allowed to see that cultural norms, as well as language are important factors in determining what constitutes a "good" presentation, and how these norms may vary from country to country.

An understanding of the close relation between language and culture is vital for students if they wish to participate in in global events. Through studying the skills required to carry out successful presentations in English, and by analyzing how these skills differ to the skills required to present successfully in Japanese, the students are also learning important lessons in cross-cultural communication.

In the second half of the year, we built on the foundations we had laid in the first half by having students research topics relating to the STEP program in order to carry out presentations as part of their field work trips in March. The students were split into groups, each tasked with researching areas related to the society, technology, economics, and politics of the countries they will visit in March.

The students then utilized the presentation skills they were taught in the first half of the year to turn their research into presentations. They presented to the class, in order to get feedback on their materials, and presentations skills. The students did a good job of taking their carefully researched topics and turning them into enlightening presentations. The students did a great job of making sure to pay particular attention to potentially culturally difficult topics, as they will have to give these presentations in front of many people in different countries in March. This is an important skill, and one that will serve the students well in their future careers as global leaders.

④ 1年 Field Work（フィールドワーク）、その他

１．留学生と交流し文化比較、意見交換をする。

日　時：平成３０年１０月２２日（月）１４：３０～１６：００
場　所：大阪大学　豊中キャンパス
参加者：高校１年　グローバルコース生（２０名）
テーマ：「グローバルリーダー像及びリーダーに必要な能力とは？」
内　容：①グループ（3名か4名）に留学生（1名）というグループ分けで、アイスブレイクの時間をとる。時間が経つと班を移動し、留学生全員と話すようにする。
②各班で今回のテーマに沿ったディスカッションを行う。
③上記②を基に、総括として各班が報告、意見の共有をする。

【講評】

どの生徒も留学生と積極的にコミュニケーションをとることができていた。普段あまり接することがない東南アジアやヨーロッパの留学生と話し合う機会が持てた事は貴重な経験になったと思われる。また、「グローバルリーダーに求められる能力とは」というテーマで留学生とディスカッションを行い、これからの学習を通して身につけるべき資質や能力について具体的な目標がつかめたのではないかと思われる。

２．模擬国連交流会

日　時：平成３０年１２月２２日（土）９：３０～１７：００

場　所：大谷高校

参加者：高校１年　グローバルコース生（１１名）

テーマ：「テロリズム」

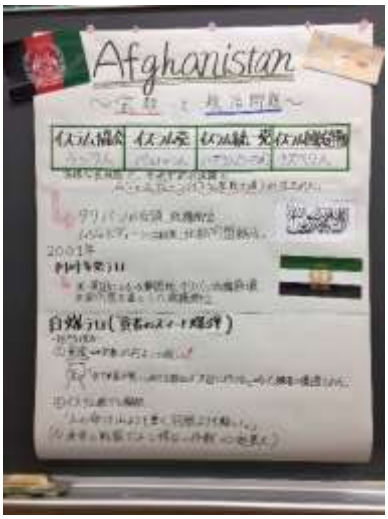
内　容：①グループに分かれて、事前に与えられた国で起こったテロ事件について調べてきたことを共有する。

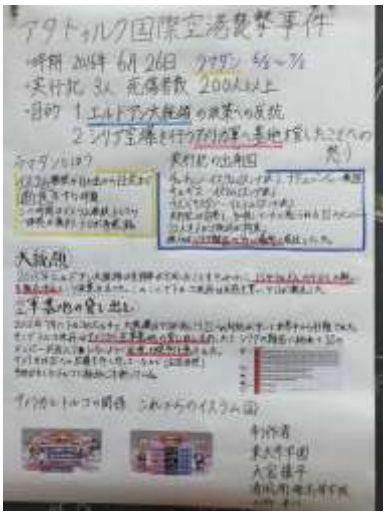
②さらに調べるべきことを話し合い、事件についての知識を深めていく。事件についての知識が深まれば、ポスターにまとめていく。

③作成したポスターを基に、ポスターセッション形式で発表を行う。

【講評】

どの生徒も他校の初めてで合う生徒と緊張することなく、ディスカッションを行い、意見を出し合っていた。短い時間ではあったが、テロリズムについて調べることにより、かなり深い考察を行うことができたのではないかと思う。また、発表の場においても、発表の回数を重ねるごとにより工夫が凝らされていることがわかり、とても興味深い発表となっていた。今回は模擬国連を行うための知識を深めるという形式であったが、実際の模擬国連にも挑戦していってもらいたい。





２．二年生

STEP ゼミは各生徒が 4 分野より 1 つを選択して学び、SP に向けての活動を行いました。

① 2 年 STEP ゼミ　Societal（社会学的分野）

【意義・ねらい】

社会や人間そのものに対する考察を深める訓練を行う。年度後半はより具体的な課題に取り組むため「キャリア甲子園」に参加し、斬新なアイディアの創出（発散）とエビデンスの収集による実現可能性の確立（収束）という形で思考の運用を体感した。キャリア甲子園はＰＢＬ(project Based Learning)の実際的な大会として多くの参加校があり緊張感を持って取り組めると考えられる。

キャリア甲子園では実際の企業から現状に即したアクチュアルな課題が提示されており、少し未来を対象としているためシナリオプランニング（ＳＰ）を実施する際にも効果があると思われる。

【授業の流れ】

9 回目	チーム分けとテーマ企業の決定
10～12 回目	課題に対するエビデンスの調査とプランの考案
13 回目	中間報告会
14 回目	発表に向けての準備
15 回目	準決勝大会にむけての準備及び総括

【生徒の感想】

・プランを作る力（軸に添わせる・論理力・目的設定・主体者意識を持つ・現実性など）がついた この力がなければ自分が死ぬほど辛い目にあうという教訓がついた。

・どんなものにも客観的根拠を持って考えていく能力やパワーポイントやワードなど、資料作りの能力を得ることが出来た。プレゼン能力がついた。 SP の論文や社会に出てからのプレゼン、企画提案などの時に生かしたい。

・日常の不便なところや便利なところを見つけだす力を得られたと思うので将来、企画立案の際に案を作る元になるきっかけを見つける時に生かせると思う

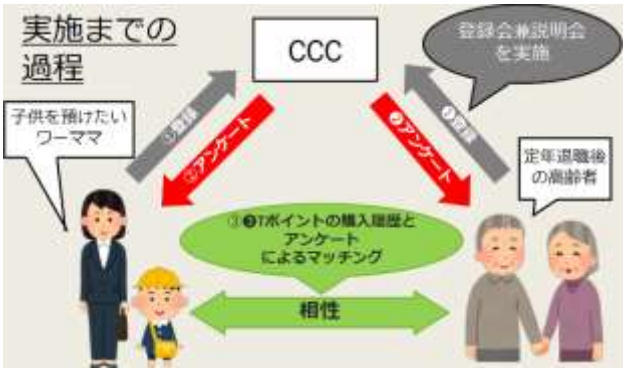
・1 年を通して、まずゴールを決めてそこまでの道筋を論理的に考えそれに沿って行く力がついたと思う。これはもちろん会社に勤めてからプランを考えるのに生かせるが、それだけでなく自分が日々成長していくのにも生かせると思う。

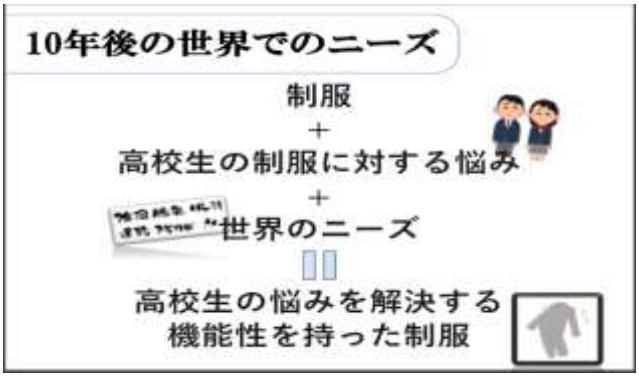
・いつまでに何をしなければならないかを短期的なスパンだけでなく長期的なスパンで考えられるようになった。これは大学入試に向けて、また会社でのキャリアをどのように積んでいくかなどに役立てられると思う。

・企業分析をする時に STEP の視点を使ったり、SWOT 分析をしたりしたことは、今後何かを分析するときに生かせる。また、テーマ分析をすることも、課題に即したものにするために生かせる。論理立てて考えることも、今後何にでも必要だと思う。また、チームで動くことで意見が分裂することもあるけど、みんなの考えを合わせたことも意見をまとめる上で役立つと思う。

【生徒作品・成果物】

「キャリア甲子園」応募スライド





【講評】

社会学という領域の曖昧な学問を教えるにあたり、曖昧さ故の評価基準の不明瞭さを回避するため、外部コンテストへの参加を試みた。結果として審査結果が客観的な第三者によって与えられることになり生徒にとっては刺激になったと思われる。

また、未来を予測してのビジネスプランの創出はＳＰや統計資料の扱いを鍛えるにも適切であったと考えられる。昨年に引き続き準決勝大会に４チームが残り、東京に行くことになった。そのうちの１チームは一般コースのみで構成されており、グローバルコース以外の生徒への刺激にもなっていたと言える。本資料が配付される時には準決勝の結果も出ていることと思うが、関東の学校との交流が持てた点でも良かったのではないかと評価している。

② 2年 STEP ゼミ　Technological（科学技術的分野）

【意義・ねらい】

世界が抱えるエネルギー問題について、幅広い知見をもとに深く考察する能力を身に付ける。そのために様々な発電方法や電力問題について学習する。特に、化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして政府が導入・普及の促進を目指す再生可能エネルギーについて様々な視点から深く学習する。また、実際に SP を行うことで、社会におけるエネルギー問題を客観的に捉え、解決の糸口を見出す能力を養う。

【授業の流れ】

9 回目	NRI 学生小論文コンテストの振り返り
10 回目	ペロブスカイト型太陽電池についての事前学習①
11 回目	ペロブスカイト型太陽電池についての事前学習②
10 月 6 日(土)	ペロブスカイト型太陽電池作成実習
12 回目	実習を受けてのレポート作成①
13 回目	実習を受けてのレポート作成②
14 回目	実習を受けてのレポート作成③

夏休み期間中に実施予定であった京都大学の太陽電池作成実習は１２月に実施した。京都大学化学研究所でペロブスカイト型太陽電池の作成を行った。世界の最先端技術に触れるという高校生としては非常に貴重な体験をしている。

【生徒の感想】

・この実習を通して、太陽電池に対しての興味が深まった他、研究室の雰囲気を肌で感じて大学より先の自分の将来を考えることができました。専門的な機械を自分の手で使い、研究の最前線を体感させてもらえてとても有意義な体験になったと思います。

・ペロブスカイト、研究員の方々がそれぞれの班について丁寧に作り方を教えて下さった。そうしてペロブスカイトを作ったのだが、やはり難しい。回転や、温めたりすることは機械で行うが、層を作る大切な作業は全て手作業であるため感覚的な所がある。それを機械で行って画一的に変換効率が高いものを作るのはまだ難しいのだと感じた。

・このような技術の末端とも呼べるようなことに少しでも触れることが出来てとても充実した実習でした。論文の内容は高校生にとっては専門用語が多く多少難儀で、特に発電メカニズムは解説なしではわかりませんでした。また、論文を元にペロブスカイトの基本的な構造を理解して、作成時にも活かそう　と思っていたのですが、実習時の解説がわかりやすく作成が手軽だったのが驚きでした。残念なことに私が作った簡易的なペロブスカイト太陽光電池はスピンコートを失敗してしまい、発電の実験に使用されることはありませんでした。アドバイスもきちんと聞いて、手先に意識を集中させていたのですがガラス越しの上に 2 重ゴム手袋をしていたので上手くいきませんでした。もし次回があるのなら成功させてみたいです。

【京大実習の様子】

【講評】

≪良かった点≫

・なかなか研究する機会のない太陽電池を京都大学に行って、作製できてよかった。生徒も最先端の研究を目の当たりにして、興味を持って取り組めていた。今後の進路について考えるよい機会となった。

・太陽電池に関する事前学習発表などを用いることで太陽電池による技術的な進歩や社会的な意義を見出すことができ、ペロブスカイト型太陽電池作成実習のモチベーションの向上につながったのではないかと考えられる。

・太陽電池作成実習の際、研究室の学生と実際に会話できたことが生徒にとって大きかったように感じる。大学への進学や研究室に所属することなどの自身の将来を考えるきっかけができたのではないか。

≪反省点≫

・太陽電池の構造から理解するのは難しかった。

・校外でのコンクールや発表の機会を昨年度を受けて参加したが、他の SGH プログラムとのかみ合わせが悪く、生徒への負担になってしまったようである。

③ 2年STEPゼミ　Economic（経済的分野）

【意義・ねらい】

経済と一口にいっても、経済政策や企業行動、金融政策や株・為替などその対象は様々である。SPにつながる経済の知識を身につけさせるとともに、グローバルリーダーとしての資質や実際の進路選択にもつながる活動を考えた。その手段として、日本経済新聞が主催している日経ストックリーグを用いた。日経ストックリーグは大学生を中心としたポートフォリオ作成のコンテストであるが、高校生や中学生も参加し、高校生が優勝していることもある。様々な社会的な問題をテーマにし、企業活動を研究しながらポートフォリオを組むことで、金融政策や国際関係など幅広い知識の習得も含め、経済的な考え方や知識が身につけられる。

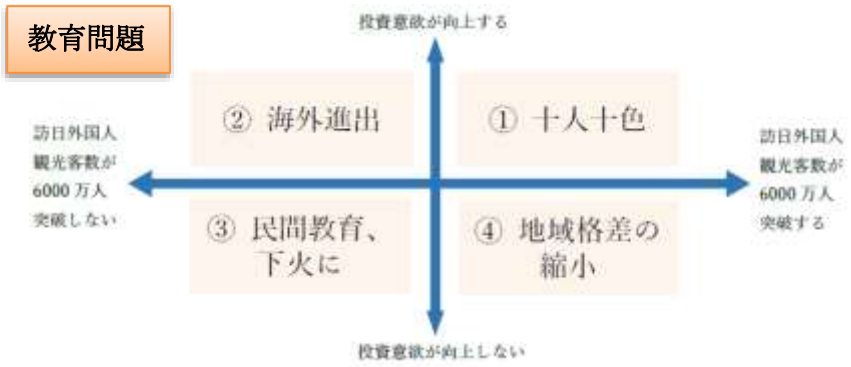
【授業の流れ】

10～14回目	各班の活動、レポート作成
15回目	レポートの発表

【課題研究のテーマ】

教育問題・食の安全と食生活の変化・災害対策・医療

【生徒作品・成果物】



企業訪問の様子

《ポートフォリオ名》Gleamers' selection

象限	証券コード	業種	企業名	構成比	購入金額
1	4714	サービス業	リソー教育	6.25%	¥312,500
1	6702	電気機器	富士通	10.25%	¥512,500
1	7952	その他製品	ニチイ学館	10.00%	¥500,000
1	9792	サービス業	河合楽器製作所	7.50%	¥375,000
2	5803	非鉄金属	フジクラ	3.78%	¥188,881
2	6052	電気機器	東芝	5.03%	¥251,748
2	7936	その他製品	アシックス	4.41%	¥220,280
2	8053	卸売業	住友商事	4.78%	¥239,161
3	1973	情報・通信業	NECネッツエスアイ	5.26%	¥262,704
3	3839	情報・通信業	ODKソリューションズ	3.28%	¥164,234
3	6753	電気機器	シャープ	5.12%	¥256,204
3	7752	電気機器	リコー	4.34%	¥216,788
4	3933	情報・通信業	チエル	3.78%	¥188,889
4	6724	電気機器	セイコーエプソン	10.22%	¥355,556
4	7911	その他製品	凸版印刷	7.11%	¥511,111
4	9437	情報・通信業	NTTドコモ	8.89%	¥444,444

教育をテーマにシナリオプランニングを使って、投資を行った。それぞれのシナリオで重要な教育テーマに関する企業を選んでいる。ポートフォリオの運用成績を検証も行った。

(2) 他の株価指数との比較＆相関関係

先ほど計算した(第4章(6)(→P15))リターン・リスク・変動係数を他の株価指数と比較する。

	ポートフォリオ	日経平均株価	東証JQS	マザーズ	東証第1部	TOPIX
リターン	3.19%	3.07%	3.35%	1.98%	4.18%	2.56%
リスク	8.14%	8.13%	6.08%	15.73%	6.87%	7.52%
変動係数	2.56	2.65	1.81	7.96	1.64	2.94

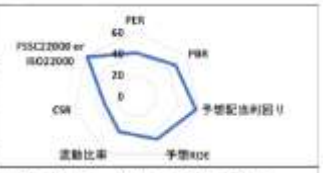
ポートフォリオとTOPIXと東証第2部の比較（投資結果）

食の安全と食生活の変化

企業訪問の様子

② 食に関する指標

ハークスレイ		評価	
企業区分	小売業	安全性	△
企業コード	7561	経済指標	16
上場市場	東証1部	独自指標	25
配分金	19.7829	合計	41



考察：ほっかほっか亭のお持ち帰り弁当を中心とした事業に加え、外販事業を行なっている。節水の効果のあるBG無洗米を使用し、保存料を極力使用していないことを示すため3時間以内に食べてもらうなど環境や安全への配慮を行なっている。

企業コード	企業名	投資金額
9936	王将フードサービス	683,353
2003	日東富士製粉	552,654
2801	キッコーマン	381,604
2201	森永製菓	250,905
2229	カルビー	226,779
2282	日本ハム	226,779
2819	エバラ食品工業	217,129
1001	日本製粉	217,129
2216	カンロ	207,479
2579	コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングス	202,654
2221	岩塚製菓	197,829
2897	日清食品ホールディングス	197,829
7561	ハークスレイ	197,829
2211	不二家	193,004
2607	不二製油グループ本社	178,528
2908	フジッコ	173,703
2612	かどや精油	173,703
9974	ベルク	173,703
7475	アルビス	173,703
8287	マックスバリュ西日本	173,703

共働きが増えてくる中、家庭での食事が変化している点に注目した。外食に加えて、総菜を買ってきて、家であべるという中食も増えている。また、食の安全性も大きなテーマである。企業訪問を通じて投資する上で重要な指標を考えポートフォリオを作成した。

【生徒の感想】

去年よりオリジナル性を出そうということで、ストックリーグのテーマの中でシナリオプランニングを活用したレポートを作成した。シンポジウムが終わるまでメンバーが揃わないことも多く、なかなか前に進まなかった。タイトなスケジュールの中最後の最後に詰め込む形になった。 10 年後の教育というトピックでシナリオプランニングしたことで、将来に繋がる知識をたくさん身につけることが出来たと思う。 また、株式投資に関しても去年のレポート作成時に比べてより理解が深まったと思う。
当初はなんとなく選んだ E ゼミでしたが、優秀な仲間たちとの活動、主にストックリーグを通じて、自分の役割を改めて自覚することができ、またチームワークを実感することができました。

【講評】

一年を通して課題を達成するためじっくりと取り組む計画を立てられたが、実際に行うとレポート作成までぎりぎりのスケジュールになった。各チーム企業訪問をするなど意欲的に取り組んだ。昨年の取り組みの継続ということで、生徒は何をすべきかをわかっており、自分たちでどんどん進めていった。提出したレポートは一次審査を通過している。

④ 2年 STEP ゼミ　Political（政治学的分野）

【意義・ねらい】

模擬国連では自らの担当する国の課題を探り出し、解決のための決議案を考える。そしてそれが決議となるよう、他の国から理解が得られるよう説明し、折衝する。この取り組みを通して生徒たちは、政治とは「最大多数の最大幸福」を実現するものであると実感し、自国だけの利益にとらわれていてはいけないということに気づくはずである。この自己にとらわれず多様性を認める姿勢こそ、生徒たちが政治を学ぶことを通じて身につけるべきものである。

具体的には①担当国を決定、②担当国の政治・経済、課題等の調査、③発表準備・練習、④担当国代表として討論、という流れで展開する。

本年の前半は「食糧安全保障」をテーマとし、第1回会議を開催した。後半は、「国際移住と開発」をテーマとし、第2回会議を行うことによって、他国への関心、課題発見・解決能力に加え、専門知識の取得（法令等の読解）、プレゼンテーション能力や表現力、交渉力などを養うことをねらいとした。

【授業の流れ】

9回目	議題決定のための話し合い、担当国決定
10回目	議題解説
11回目	担当国の政治･経済、課題等の調査
12回目	第2回会議(1日目)
13回目	第2回会議(2日目)
14回目	第2回会議(3日目)
15回目	政策まとめ

【生徒作品・成果物】

・各国の政策まとめ（左：中国、中：ネパール、右：インド）

【生徒の感想】

・political の授業を受けて、コミュニケーション能力を得ることができたと確信しています。他人の意見に対して疑問を持ち、「なぜそうなるのか」を考えることで人と議論する際に深いところまで議論を落とし込めるのではないかと思いました。 模擬国連を通して様々な人の意見を知り、この分野にとても興味を持つことができました。

・模擬国連のテーマを与えられて、自分がある国の大使になって考えていたが、結構国の立場に立って考えると言うことが結構難しく、周りの人と利害を一致させるのが難しかった。

・最初は何をしていいのか全然分からずあまり発言もできていませんでしたが、何回かするうちに慣れてくることが出来ました。また、模擬国連の大会への見学・出場、文芸や親睦会での後輩への説明を通してより一層理解を深めることが出来ました。大変なことも色々とありましたが、political を選んで良かったと思える一年でした。

【講評】

≪良かった点≫

・今会議は、第 9 回全日本高校模擬国連大会で使用された議題解説書を用い、国連会議を模擬した。全員が解説書を熟読して、論点を把握し会議に臨むことができていた。

・授業での取り組みをきっかけに、学校外で行われている模擬国連大会に出場する生徒が出てきた。

生徒が参加した主な模擬国連大会	主催者	開催月
MUN　KYOTO　（オブザーバー）	京都外大西高等学校	6 月
MUN　OSAKA	関西インターナショナル高校	7 月
灘高校模擬国連大会	灘高校	11 月
第 12 回全日本高校模擬国連大会	グローバルクラスルーム	11 月
西大和模擬国連大会	西大和学園高校	12 月
合同模擬国連交流会	大谷高校	12 月
東大寺模擬国連大会	東大寺学園高校	2 月

⑤ シナリオ・プランニング（SP）

【意義・ねらい】

シナリオ・プランニング(以下 SP)の手法を学び、この SP を用いて、課題解決学習につなげていく。この活動では SP はあくまでも手段であって、SP を学ぶことを目的としていない。課題解決学習の方法は様々あるが、ビジネス手法を応用する例は少ないであろう。SP は未来のことを考え、それに対応する方法を考えるための手法である。グローバルリーダーの資質として、現状の課題解決のみならず、将来のことを見据えて物事を考え、行動できることが求められる。これらの活動を通して、課題設定力・論理的思考力・資料分析能力・批判的思考力などを養うことを目的としている。そのため、今年度はシナリオを作成する「主体者」を明確にし、シナリオに対する対応策や戦略も考えさせている。

【授業の流れ】

ＳＰは複数の手順を踏んで論理的にシナリオを作成していく。そのため、複数回にわたり、各段階で講義をしながら進めた。パワーポイントで講義資料を作成し、それを PDF に変換して生徒へファイルを配信した。パワーポイントにはメモ機能があるので、講義の内容はその部分に書き込んだ。そうすることで、あとから生徒が見直した時に、スライドの図だけではわからないことでも、教師が何を話していたのかがわかる。

前半は SP の講義を行い、ドライビングフォースをあげ、２軸の候補を挙げた。オーストラリア研修では、姉妹校の生徒と軸の検討を行った。後半は実際にシナリオの完成に向けて取り組んだ。

授業のパワーポイントの一部

授業の中でいくつか注意した点がある。トピックを決めた後は、トピックを決めた理由を考えさせた。ここでは課題研究にあたって意義のあることなのかを吟味させ、安易な研究テーマにならないように気をつけた。重要因子の特定にあたっては、STEP 分析と SWOT 分析を組み合わせた。ドライビングフォースの評価はしっかりとした資料をもとに判断させるため、十分な時間を確保した。シナリオの作成は様々な出来事を時系列で並べた後に、文章化するように指導した。

【生徒作品・成果物】

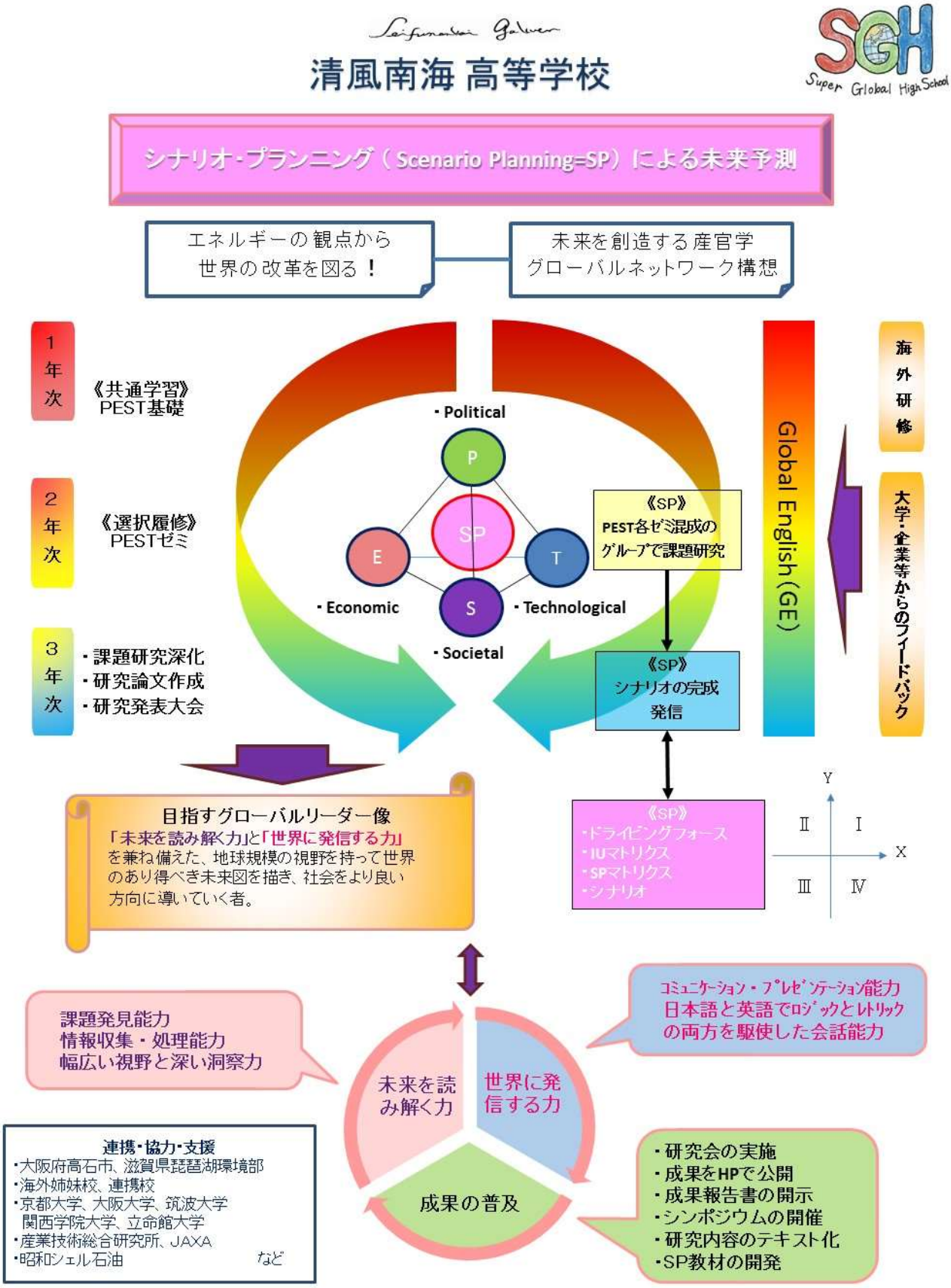
【講評】

前年度までは、簡単な SP の練習を複数回行ってから、エネルギーをテーマにした本番の SP を行っていた。しかし今年度は練習をせず、講義をしながら最初から本番の SP を行った。理由は本番の SP に入った後、一度きめたトピックを何度も変更する例があり、その多くが情報不足であった。進めていくと、途中で軸をうまく選定できないなどで詰まり、変更するようになった。そこで、今年度は練習をせずに、手順②に情報収集をいれるなど、トピックについて十分調べるように指導した。このようにしたことで、途中でトピックを変更する班は少なくなった。しかし、軸の選定には思いのほか時間がかかり、何度も変更する班が多かった。確かに軸の選定は重要で難易度が高い。たくさんの情報を集めた結果、情報の整理や分析が難しかったようだ。STEP・SWOT 分析を取り入れたが、難易度の高い手法だったので、十分活用できなかったといえる。

次に前年度との違いは「主体者」を明確にして、誰のための SP なのかを考えさせた。SP は主体者の外部環境を予測し、それに応じた戦略を考えるものである。単にシナリオを記述するだけでは、本来の SP とはいえない。「主体者」は政府や企業、自分自身と様々に考えられる。生徒はそれぞれの立場でどのような行動をとるかを考えることで、はじめて課題解決力を養うことになる。ただし、この授業の目的は SP の習得ではないので、シナリオが本当に正しいとか、戦略や対応策が正しいというところを重要視していない。あくまで、自分たちが考えたシナリオや戦略・対応策が資料などに基づいて考えられているかという「論理的思考力」やシナリオの状況でどのような問題があり、どのように解決するかという「問題発見能力」「課題解決力」の習得が重要で、SP を手段として使っている。

４つのシナリオを作成するまではチームで行い、主体者の戦略・対応策は個人論文にまとめることにした。今後は論文作成に入るが、資料を用いて、読者に自分たちの主張を理解してもらう文章を書かないといけない。論文の書き方はマニュアルを作成して指導している。

◇SP 概念図


Seifunanhai Gakuen
清風南海 高等学校
SGH
Super Global High School
シナリオ・プランニング（Scenario Planning=SP）による未来予測
エネルギーの観点から
世界の改革を図る！
未来を創造する産官学
グローバルネットワーク構想
1年次
《共通学習》
PEST基礎
2年次
《選択履修》
PESTゼミ
3年次
・課題研究深化
・研究論文作成
・研究発表大会
・Political
P
SP
E
T
S
・Economic
・Technological
・Societal
《SP》
PEST各ゼミ混成の
グループで課題研究
《SP》
シナリオの完成
発信
Global English（GE）
海外研修
大学・企業等からのフィードバック
目指すグローバルリーダー像
「未来を読み解く力」と「世界に発信する力」
を兼ね備えた、地球規模の視野を持って世界
のあり得べき未来図を描き、社会をより良い
方向に導いていく者。
《SP》
・ドライビングフォース
・IUマトリクス
・SPマトリクス
・シナリオ
Y
X
Ⅱ
Ⅰ
Ⅲ
Ⅳ
課題発見能力
情報収集・処理能力
幅広い視野と深い洞察力
コミュニケーション・プレゼンテーション能力
日本語と英語でロジックとレトリック
の両方を駆使した会話能力
未来を読
み解く力
世界に発
信する力
成果の普及
連携・協力・支援
・大阪府高石市、滋賀県琵琶湖環境部
・海外姉妹校、連携校
・京都大学、大阪大学、筑波大学
関西学院大学、立命館大学
・産業技術総合研究所、JAXA
・昭和シェル石油　など
・研究会の実施
・成果をHPで公開
・成果報告書の開示
・シンポジウムの開催
・研究内容のテキスト化
・SP教材の開発

⑥その他

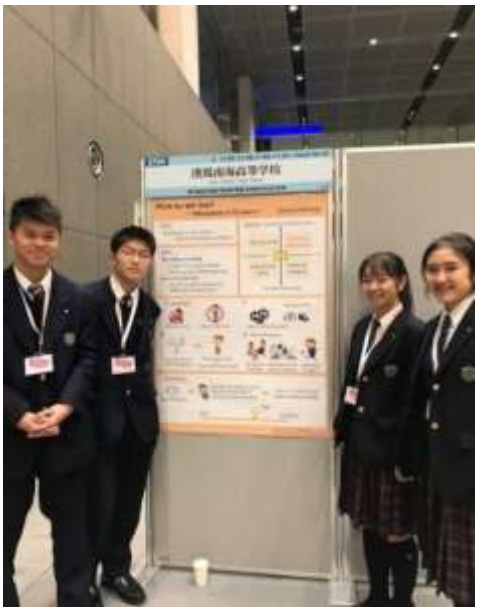
１．SGH 甲子園（全国スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会）	
平成 30 年 3 月 24 日（土）	全国から高校生が集まり、課題研究の発表を行いました。本校からは 高２生（当時）９名　課題研究ポスター発表
平成 31 年 3 月 23 日（土）	高２生（当時）４名、課題研究プレゼンテーション発表（口頭発表） 高１生（当時）５名　課題研究ポスター発表 で出場予定です。

ポスター発表の部

２．第 12 回全日本高校模擬国連大会	
議題：）Arms Transfers	
11 月 17 日（土）	1st Meeting
11 月 18 日（日）	2nd Meeting , 3rd Meeting

３．第 10 回観光甲子園	
8 月 23 日(木)	本校から１チーム（高校２年生）が訪日部門での審査員奨励賞を受賞し、表彰頂きました。

４．2018 年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム	
12 月 15 日(土)	本校の代表として、１チーム（高校２年生）が SP の発表をしました。



５．第 60 回大阪府統計グラフコンクール	
1 月 18 日(金)	本校から 1 チーム（高校 2 年生）が、高校以上一般部門で特選を受賞し、表彰頂きました。

６．第 6 回 高校生ビジネスプラン・グランプリ	
1 月 27 日(日)	本校から 3 チーム（高 2 生）がビジネスグランプリに出場しました。その中から 1 チームが大阪府内の出場チームとのプレゼン発表会に招待頂き参加しました。

ビジネスアイデアの試作品と授業風景

Ⅲ　今後の事業展開について

１．国内外のフィールドワーク（3 月）

今年度は、1 年生全員と 2 年生の希望者が以下の予定でフィールドワークに参ります。

No.	行先	日程	内容
1	産総研・ 東工大・ アクセンチュア コース	3/13 （水） ～ 3/16 （土）	新大阪出発→新横浜到着 東京工業大学すずかけ台キャンパス訪問 横浜フィールドワーク
			日本未来科学館見学 お台場班別研修 弁護士による講演会
			産総研訪問
			株式会社アクセンチュア訪問 東京出発→新大阪到着
2	フィリピン （マニラ）	3/13 （水） ～ 3/18 （月）	関空発→マニラ国際空港着
			Colegio de San Juan de Letran 訪問（終日）
			現地企業訪問 ＧＫ財団訪問
			Colegio de San Juan de Letran 訪問（終日）
			Letran の学生とフィールドワーク（マニラ市内）
			スモーキーマウンテン見学 マニラ国際空港発→関空着

〈昨年度の様子〉

No.	行先	日程	内容
3	ベトナム (ﾎｰﾁﾐﾝ)	3/13 (水) ～ 3/18 (月)	関空発→ホーチミン国際空港着
			Le Hong Phong High School 訪問（終日）
			Marie Curie High School 訪問（終日） Marie Curie の学生とグループ別フィールドワーク（ホーチミン市内）
			現地企業訪問（AAB）
			社会見学
			ホーチミン空港発→関空着
4	ﾏﾚｰｼｱ (ｼﾞｮﾎｰﾙﾊﾞﾙ) ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	3/13 (水) ～ 3/18 (月)	関空発→チャンギ国際空港着
			St. Joseph's Institution 訪問（終日） 日本旅行社長講話
			現地企業訪問 現地大学生とフィールドワーク ジョホールバル（マレーシア）へ移動
			マレーシア工科大学訪問 カンポン（マレーの伝統的な村）滞在体験
			マレーシア工科大学訪問 シンガポールへ移動 ナイトサファリ
			チャンギ国際空港発→関空着

〈昨年度の様子〉

2．事業展開　－3 年間の流れ－

《1 年生》

	月	STEP		その他
第一年次	4	P 基礎 E 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ
	5			
	6			
	7	中間発表準備		
	8			
	9	**第 1 回中間発表会**		
	10	S 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ
	11			
	12			
	1	中間発表準備		
	2			
	3	**第 2 回中間発表会**		

<国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑにおけるﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ>

《2 年生》

				STEP		その他
第二年次	4	P 基礎 E 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	STEP ｾﾞﾐ SP	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ
	5						
	6						
	7	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備			国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備		
	8						
	9	**国際シンポジウム**			**国際シンポジウム**		
	10	S 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	STEP ｾﾞﾐ SP	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ
	11						
	12						
	1	中間発表準備			中間発表準備		
	2						
	3	**中間発表会**			**中間発表会**		

《3 年生》

							SP		その他
第三年次以降	4	P 基礎 E 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	STEP ｾﾞﾐ SP	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	SP	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ
	5									
	6									
	7	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備			国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ準備			課題研究発表準備		
	8									
	9	**国際シンポジウム**			**国際シンポジウム**			**課題研究発表**		
	10	S 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	STEP ｾﾞﾐ SP	GE	講演会 特別授業 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	論文作成･発表		
	11									
	12									
	1	中間発表準備			中間発表準備					
	2									
	3	**中間発表会**			**中間発表会**					

３．運営指導委員一覧・連携先一覧

① 運営指導委員一覧（敬称略）

小谷　泰造	株式会社インターグループ取締役会長
佐野　慶子	高石市教育委員会教育長
中村　松市	株式会社パイン キャピタル（シンガポール）グループ代表
横山　直樹	富士通研究所名誉フェロー

② 連携先一覧

京都大学，大阪大学，筑波大学，東京工業大学，関西学院大学，立命館大学
昭和シェル石油，アクセンチュア，東京証券取引所
大阪府高石市，滋賀県琵琶湖環境部
産業技術総合研究所（AIST），宇宙航空研究開発機構（JAXA），理化学研究所(RIKEN)
Brisbane Grammar School (Australia) Choate Rosemary Hall (the U.S.A.) Colegio de San Juan de Letran (the Philippines) Le Hong Phong High School (Vietnam) Marie Curie High School (Vietnam) St. Joseph's Institution (Singapore) Universiti Teknologi Malaysia (Malaysia)

【MEMO】

清風南海学園　中学校・高等学校

Tel　072-261-7761
Fax　072-265-1762
http://www.seifunankai.ac.jp/